

『ミマモリングソフト』 ZOOM 説明会 レポート集計報告

第212号 2021年3月22日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

ZOOM 説明会 レポート集計報告

本誌、第209号の続きになりますが『ミマモリングソフト』ZOOM説明会にご参加頂いた皆様からのワークショップシートの集計が終わりましたので、こちらのメールマガジンでもその内容の一部をご紹介します。

1. ワークショップシート（保育事例集）の集計結果を見る

次の頁にワークショップシートの集計結果を掲載しています。

ワークショップシートをご返送頂いた先生方が取り組んだ内容を5領域・カテゴリー別に掲載しています。

2. ワークショップシート（保育事例集 一部ご紹介）を見る

担当しているクラスの子どもたちと同じ発達課題の取り組みがあれば、どんな内容に取り組んだか、保育の参考としてワークショップシートをご確認してください。領域ごと、カテゴリー順に掲載しています。指針の領域（カテゴリー）の内容に対して、こういった取り組みを行ったか等掲載しています。

3. 取り組みを真似する

園の子どもたちと同じ発達課題で、真似しやすい取り組みがあれば、その内容を保育計画に入れ取り組んでみてください。

今回の説明会にご参加頂いた園の皆様には、保育事例集の中から

「もっと詳しく話を聞いてみたい!」「環境に置き換えた写真を見てみたい!」という取り組みについて、実践発表の時間を設け、その園の先生に発表して頂く予定です。

その内容についてもメールマガジンで、ご報告する予定です。
お楽しみに!

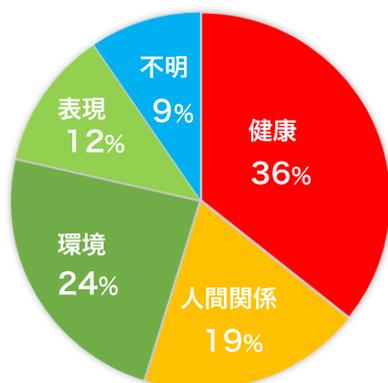
■その子の今（発達記録登録）についての概要を確認

The screenshot shows a software interface for recording child development. It features a table with columns for age, development items, and comments. Callouts A, B, C, and D point to specific areas of the interface.

- A**: 5領域エリア (5 Domains Area) - 保育所保育指針等の5領域の内容に準拠しています。0歳から卒業するまでの発達項目を領域ごとに並び替えたことで、今の発達と次の課題が明確に表示されています。
- B**: 発達項目エリア (Development Item Area) - 年齢ごとの発達様式ではなく、0歳～6歳までの発達項目が並び替わっています。平成11年・平成20年・平成29年の指針の発達項目を参照しているため、ミマモリングソフトウェアを通して、子どもの発達を見守っていくことで、自然と指針の内容が身につく、保育の質を上げていくことができます。
- C**: ヒントエリア (Hint Area) - ヒントを押すと、指針の解説書の内容が表示されます。また、個抜目の内容に書き換えることも可能です。
- D**: コメント欄のエリア (Comment Field Area) - 先述した手書きの個別計画書の内容を解決し、コメント欄に、記録・配慮・評価を記入することで、手書きの個別計画書を省力することが可能です。

ワークショップシート集計結果

1. ワークショップシートをご返送（ご回答）頂いた先生方の領域別の取り組み



回答数：42

回答者による領域別取り組み

領域	回答数
健康	15
人間関係	8
環境	10
言葉	0
表現	5
不明	4

2. ワークショップシートをご返送（ご回答）頂いた先生方の取り組みの内訳

領域別取り組みの内訳

【健康】

※M0：0～2歳、M1：3歳、M2：4歳、M3：5歳、M4：6歳

カテゴリー	M	内容	回答数
食事	M0	楽しい雰囲気の中で、昼食や間食が食べられるようにする。	1
排泄	M0	自分から、あるいは言葉をかけてもらうなどして便所に行き、保育者が見守る中で自分で排泄する。	3
衣服	M0	簡単な衣服は一人で脱ぐことができるようになり、手伝ってもらいながら一人で着るようになる。	3
体を動かす遊び	M1	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	2
	M1	外で十分に体を動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。	1
道具を動かす遊び	M3	様々な運動器具に進んで取り組み、工夫して遊ぶ。	5

【人間関係】

カテゴリー	M	内容	回答数
協同性	M2	手伝ったり、人に親切にすることや、親切にされることを喜ぶ。	4
社会規範	M0	園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。	1
異年齢	M0	生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。	2
異文化	M2	外国の人など、自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。	1

【環境】

カテゴリー	M	内容	回答数
自然事象	M1	身近な動植物をはじめ自然事象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみを持つ。	2
	M2	身近な動植物の世話を楽しんで行い、愛情を持つ。	4
自然・社会事象	M0	身の回りの小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ。	1
公共施設	M2	身近にある公共施設に親しみ、関わることを喜ぶ。 身近にある乗り物に興味や関心を示し、それらを遊びに取り入れようとする。	1
公共性	M2	自分のもの、人のものを知り、共同のものに区別が気付き、大切にしようとする。	1
物の性質や仕組み	M0	安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。	1

【表現】

カテゴリー	M	内容	回答数
感覚と感性	M1	いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	3
総合的な表現	M0	生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。	2

『ミマモリングソフト』 zoom 説明会 ワークショップシート

ワークショップ① (発達理解の視点)

ソフトの説明を聞いて感じたことや発達チェックを行って感じたことをご記入ください。

- ・歯抜けのチェックに気づいてい子と二つがあった。
- ・年齢区分を間違えて理解していた。

ワークショップ② (保育計画立案の視点)

視点を変えて発達チェックを行い感じたこと、保育計画の立案のために考えた具体的な取り組みについてご記入ください。

【課題】 M O : 生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ミニ遊びを楽しむ。

【配慮】

ブロックあそびが好きで、遊んでいる時が大半なので、長く伸ばしたブロックを掃除機で見立て、あそびに取り入れた。それを おままごとゾーンやお風呂あそびに誘い、ミニあそびを「楽しい」ような環境を作りたい。

ワークショップ③ (※こちらは22日の説明会当日ではなく、後日にご記入ください)

ワークショップ②で決めたアイデアを実際に取り組みしてみてください。

用意した環境(人的・物的・空間的)の中で子どもたちを一週間見守りながら感じたこと・学んだこと、そして次にどんな環境を用意していけばいいかを下記に記入してみてください。

【評価・反省・次の環境整備】お風呂遊びや、

ままごとの環境の配置を変えてみたが、じっくり遊ぶことはできなかった。
保育教諭と2~3人でままごとゾーンで、お店屋さんミニ遊びをしたので、別の保育教諭が「楽しいだね。一緒に遊ぶ？」と声をかけると、「うん」と頷いたので一緒に遊んだ。
しばらく保育教諭とお店屋さんミニ遊びのやり取りを繰り返したあと、その場を離れたが、エプロンを見つけて保育教諭に持ってきたので、身につけてあげると、フライパンを持って

※2月22日(月)のワークショップで使用しますので、人数分印刷をしてください。

ままごとを始めた。保育教諭とのお店屋さんミニ遊びのやり取りを繰り返していた姿があったので、お店屋さんミニ遊びの食料物を用意したり、簡単なお店屋さんのやり取りを楽しいようにしたい。

『ミマモリングソフト』 zoom 説明会 ワークショップシート

ワークショップ① (発達理解の視点)

ソフトの説明を聞いて感じたことや発達チェックを行って感じたことをご記入ください。

- ・小学校への引きつぎに使えるのは良いと思った。
- ・その子の課題を聞いたことがなかったので参考になった。
- ・項目によっては家ではできるが園でその姿を見たことがない場合にチェックに困る。

ワークショップ② (保育計画立案の視点)

視点を変えて発達チェックを行い感じたこと、保育計画の立案のために考えた具体的な取り組みについてご記入ください。

【課題】 M 2 : 異文化

【配慮】

- 興味関心を持つような携示物をする。
- 異文化についての絵本を読みきかせる。
- 実際に手で食べている様子を動画で見る。

ワークショップ③ (※こちらは22日の説明会当日ではなく、後日にご記入ください)

ワークショップ②で決めたアイデアを実際に取り組んでみてください。

用意した環境(人的・物的・空間的)の中で子どもたちを一週間見守りながら感じたこと・学んだこと、そして次にどんな環境を用意していけばいいかを下記に記入してみてください。

【評価・反省・次の環境整備】

- ・携示したもの(手で食べている写真)に対して「きたない」という声が多かったので説明と動画を見ることで「手で食べる＝きたない」というイメージを変えることができたように思う。

次の環境

- ・動画や携示で紹介した世界の食べ方を実際にやってみる。
- ・日本の物とくらべて食べてみる(韓国のおりの食べくらべなど)

※2月22日(月)のワークショップで使用しますので、人数分印刷をしてください。

『ミマモリングソフト』 zoom 説明会 ワークショップシート

ワークショップ① (発達理解の視点)

ソフトの説明を聞いて感じたことや発達チェックを行って感じたことをご記入ください。

- ・ 似たりよな表現・内容でも意味合いが違ふこと
- ・ 発達状況がわかりやすい
- ・ ソフトの使い方やcheck表の判断基準をクリップしてはいるのにcheckしていたこと

ワークショップ② (保育計画立案の視点)

視点を変えて発達チェックを行い感じたこと、保育計画の立案のために考えた具体的な取り組みについてご記入ください。

【課題】 M 1 : いろいろな素材に親しみ、工夫する

【配慮】

単色いころこがサチまで武器ばかりを作る。単色いころこに発展があるトレットペーパーの芯のみと偏る。女の子もワンパターンで、それを真似する子も多し。サンプルをいくつか見せて、こんなのも作れるよというのを見せた。

ワークショップ③ (※こちらは22日の説明会当日ではなく、後日にご記入ください)

ワークショップ②で決めたアイデアを実際に取り組んでみてください。

用意した環境(人的・物的・空間的)の中で子どもたちを一週間見守りながら感じたこと・学んだこと、そして次にどんな環境を用意していけばいいかを下記に記入してみてください。

【評価・反省・次の環境整備】

単色パックでベタ・プレスレット。新聞紙で角を作って、子どもたちにつまみ棒を刺して色々な素材を使うとこんなに楽しいものが作れるよということを見せて、みんなワクワクして自分で考えて物を作るということをし始めた。不器用な子は作ることも苦にならないう感じだったので、その導入や過程も考えるべきだった。材料があまり多すぎるのも混乱するのかな?と感じた。

※2月22日(月)のワークショップで使用しますので、人数分印刷をしてください。